

PALTEK

(証券コード:7587)

2017年12月期 第2四半期
決算説明資料

2017.8.4 (金)

アジェンダ

- ① 2017年12月期 第2四半期
業績結果
- ② 2017年12月期 業績予想
- ③ 事業の進捗状況

1

2017年12月期 第2四半期 業績結果

連結業績結果

(百万円)	2016年第2四半期		2017年第2四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	17,286	100.0%	16,074	100.0%	△1,211	△7.0%
売上総利益	1,618	9.4%	2,116	13.2%	498	30.8%
販管費	1,521	8.8%	1,583	9.9%	61	4.1%
営業利益	96	0.6%	533	3.3%	436	454.4%
経常利益	116	0.7%	563	3.5%	446	381.7%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	51	0.3%	370	2.3%	318	617.2%
1株当たり四半期純利益	4.72円	—	33.82円	—	29.11円	617.3%

主な増減要因

- 売上高の減少は、半導体事業の減少による
- 売上総利益の増加は、仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額が増加したこと、利益率の低い製品の売上高が減少し利益率が上昇したことなどによる
- 販管費の増加は、主に人員の増加による

(百万円)	2016年第2四半期		2017年第2四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
半 導 体	16,307	94.3%	15,239	94.8%	△1,067	△6.5%
デ ザ イ ン ス サ ー ビ ス	924	5.4%	767	4.8%	△157	△17.0%
そ の 他	54	0.3%	68	0.4%	13	25.0%
売 上 高 合 計	17,286	100.0%	16,074	100.0%	△1,211	△7.0%

主な増減要因

- 半導体事業については、スーパーコンピュータ向けにアナログ半導体が増加した一方で、メモリ製品が海外メーカー向けに大幅に減少し、FPGAが通信機器向けに、汎用ICがオフィス機器向けに減少したことによる

■ 売上総利益率の上昇は、以下が要因

- 【2016年第2四半期】ドル円相場が急速に円高進行したことにより、仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額が減少し、為替変動の影響額は△442百万円
- 【2017年第2四半期】年初における評価レートが円安に進行したことにより、仕入値引ドル建債権の評価額増加を含む為替変動の影響は+49百万円
- 半導体事業において、売上総利益率の低い案件の売上高が前年同期から減少

(百万円)	2016年第2四半期		2017年第2四半期	
	金額	対売上比率	金額	対売上比率
売 上 総 利 益	1,618	9.4%	2,116	13.2%
(うち為替の影響額)	△442	△2.5%	+49	+0.3%
売 上 総 利 益 (為替の影響を排除)	2,060	11.9%	2,066	12.9%

■ 売上総利益への影響額

- 為替変動の影響額は、為替レートの変動が緩やかだったため縮小

(単位:百万円)	16Q1	16Q2	16Q3	16Q4	17Q1	17Q2
為替レートの変動(円)	120→112	112→102	102→101	101→116	116→112	112→111
為替変動の影響(売上総利益)	-126	-315	-365	277	102	-52
仕入値引債権の評価額変動の影響	-437	-657	-795	653	128	-156
調達在庫の為替レート変動の影響	310	341	429	-375	-26	104

■ 営業外損益への影響額(期末評価替の影響は含まず)

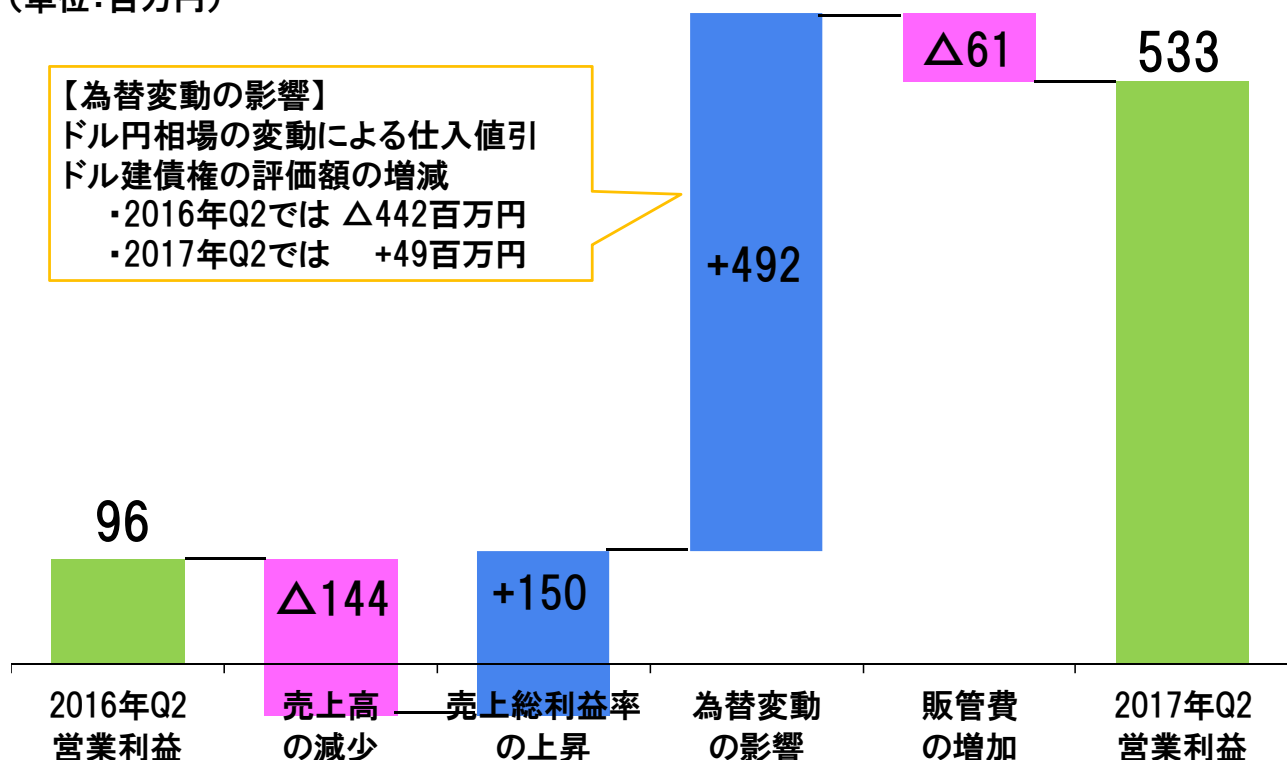
- 買掛金支払時のレート変動の影響は、為替レートの変動が緩やかだったため、縮小

(単位:百万円)	16Q1	16Q2	16Q3	16Q4	17Q1	17Q2
買掛金支払時のレート変動の影響(営業外)	407	253	211	-494	36	46

- 売掛金受取時のレート変動の影響額は、為替予約のため変動影響が縮小

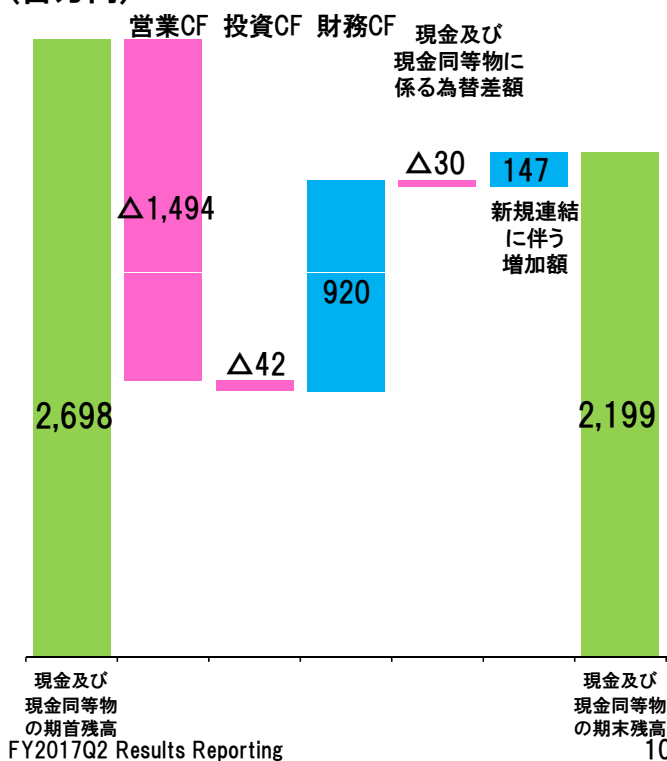
(単位:百万円)	16Q1	16Q2	16Q3	16Q4	17Q1	17Q2
売掛金受取時のレート変動の影響(営業外)	-263	-218	-133	15	25	-29

(単位:百万円)



	(百万円)	2016.12末	2017.6末	増減額	主な増減理由
資産内訳	現金及び預金	2,698	2,199	△498	
	売上債権	7,064	6,609	△455	
	商品	3,094	3,503	408	
	その他流動資産	2,180	3,512	1,332	未収入金が増加したため
	固定資産	460	470	9	
資産合計		15,499	16,295	795	
負債純資産内訳	仕入債務	1,615	1,058	△556	
	短期借入金	3,500	4,580	1,080	買掛金の支払いに充当したため
	その他流動負債	1,220	1,229	9	
	固定負債	269	258	△10	
	純資産	8,895	9,168	273	
負債・純資産合計		15,499	16,295	795	

2017年第2四半期のキャッシュフローの動き (百万円)



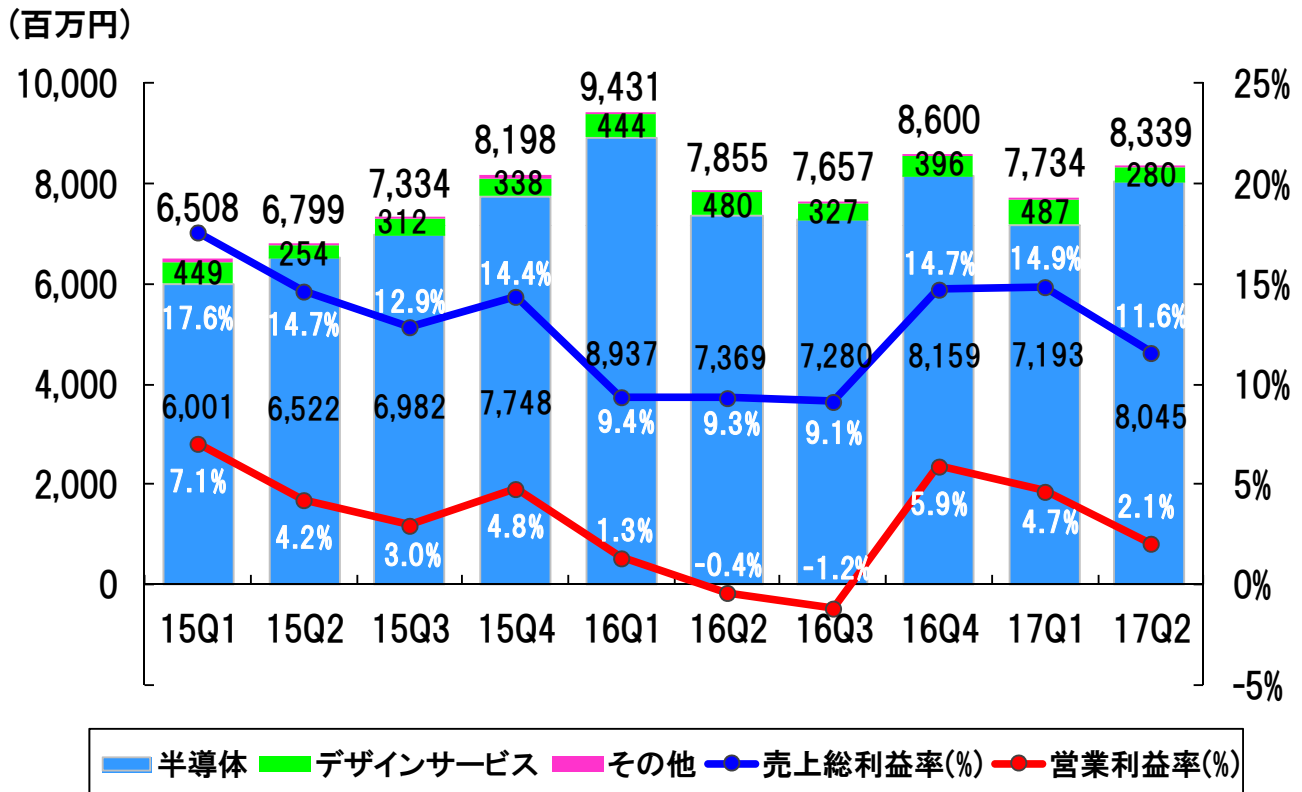
(百万円)	2016年 第2四半期	2017年 第2四半期
現金及び現金同等物の期首残高	1,199	2,698
営業CF	1,294	$\Delta 1,494$
投資CF	$\Delta 4$	$\Delta 42$
財務CF	$\Delta 270$	920
現金及び現金同等物の期末残高	2,199	2,199

2017年第2四半期のキャッシュフローの動き

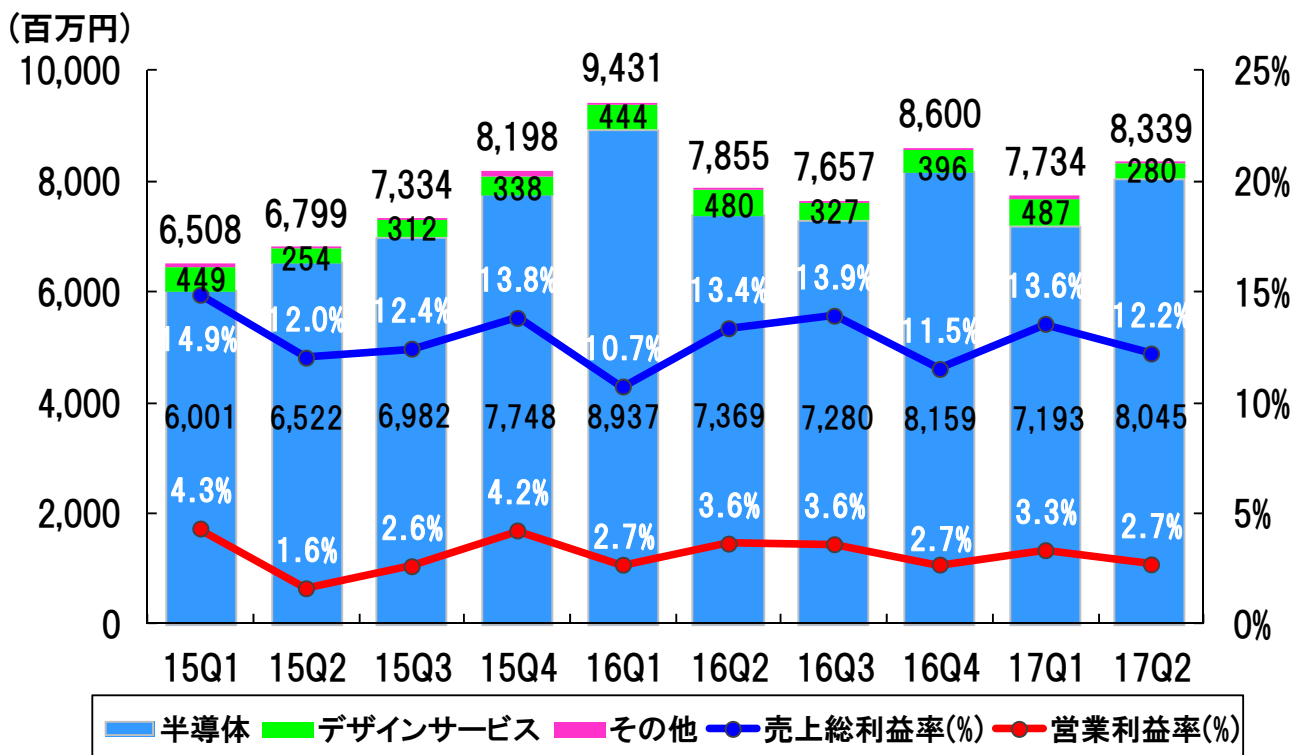
- 営業CF: 税金等調整前四半期純利益を計上し、売上債権が減少した一方で、未収入金が増加し、仕入債務が減少したこと等により支出
- 投資CF: 有形固定資産および無形固定資産を取得したことにより支出
- 財務CF: 配当金の支払いを実施した一方で、借入れを実施したこと等により収入



連結業績の四半期推移

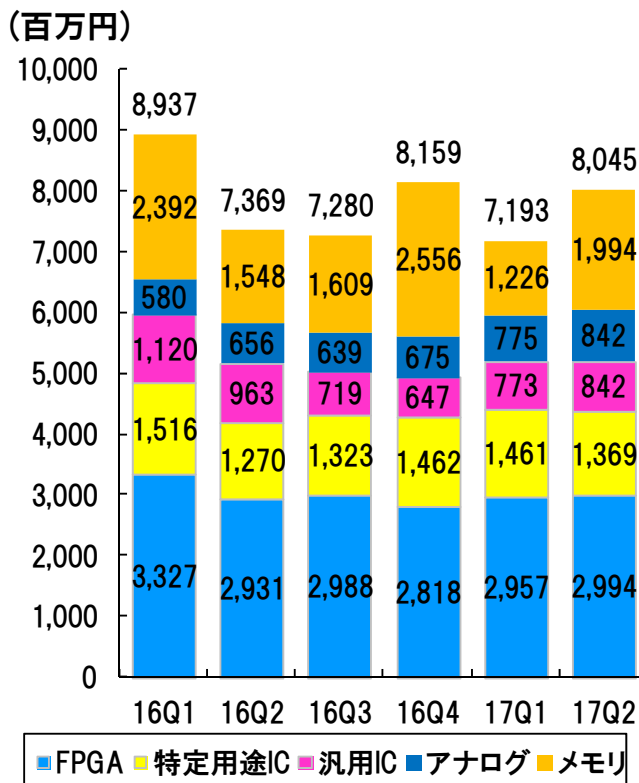


連結業績の四半期推移(為替の影響を除いた場合)



事業別の実績

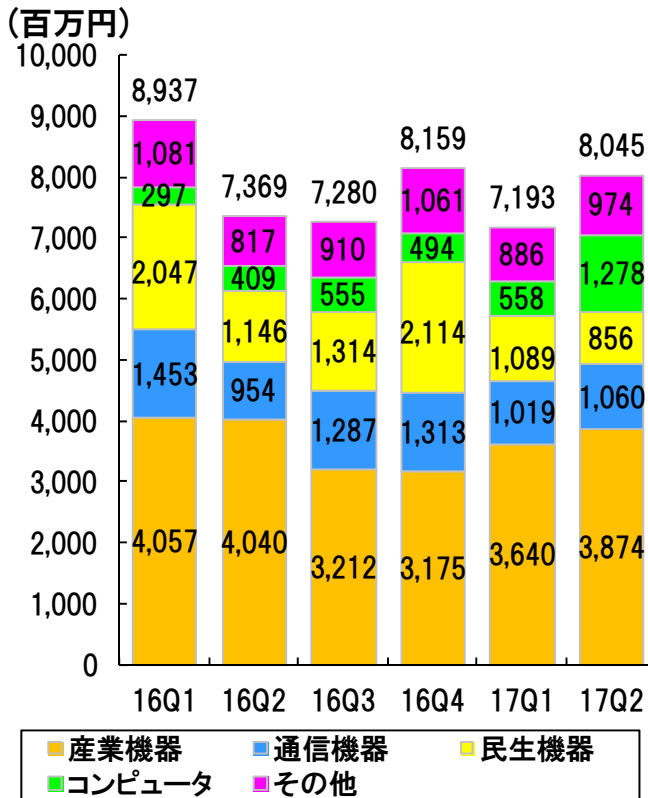
半導体事業の状況（製品別）



四半期業績の推移

- FPGA**
車載向けが減少するも、医療機器、放送機器向けが増加
- 特定用途IC**
放送機器向けなどが減少
- 汎用IC**
通信インフラ向けが増加
- アナログ**
スーパーコンピュータ向けが増加
- メモリ**
スーパーコンピュータ向けが増加

半導体事業の状況（用途別）



FY2017Q2 Results Reporting

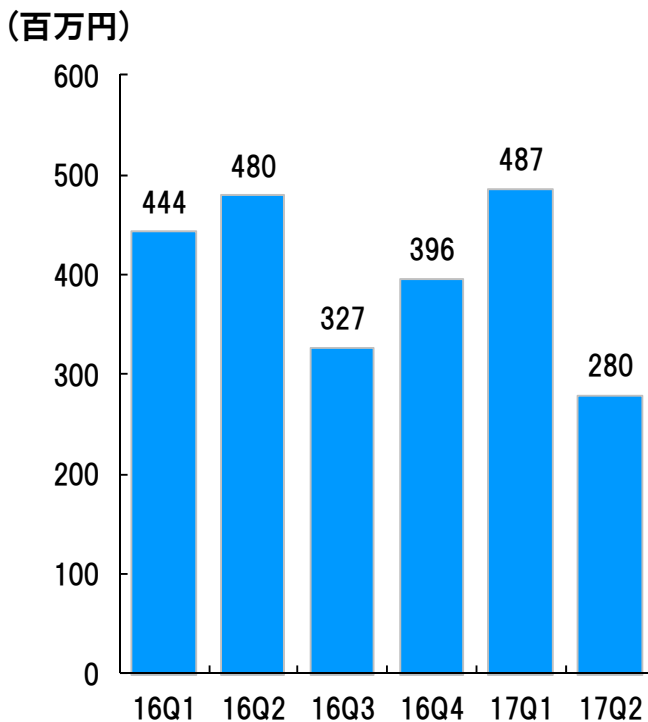
15

四半期業績の推移

- 産業機器
医療機器、放送機器向けが増加
- 通信機器
通信インフラ向けが増加
- コンピュータ
スーパーコンピュータ向けが増加

© 2017 PALTEK Corporation. All rights reserved.

デザインサービス事業の状況



FY2017Q2 Results Reporting

16

四半期業績の推移

- 医療、通信機器、映像/放送機器向けの案件が減少
- 自社製品開発が当初の想定よりも遅延したため、技術者を受託開発案件に割り当てられず、売上高が減少
- デザインサービス事業においては、お客様(3月決算会社)の予算との連動性が高いため、第2四半期の売上高は第1四半期に比べ、減少する傾向

© 2017 PALTEK Corporation. All rights reserved.

2

2017年12月期 業績予想

2017年12月期 業績予想の修正

上半期の結果および下半期の状況を考慮し、
業績予想を修正

■ 売上高(下期)

- 半導体事業 :スーパーコンピュータ向けにアナログ半導体が堅調
民生機器向けのメモリ製品が低調
- デザインサービス事業 :医療、航空／宇宙向けが引き続き低調
自社製品の更なる開発を実施するため、売上高は減少

■ 営業利益

- 売上高減少による売上総利益の減少
- 販売費及び一般管理費の低減
- 第3四半期における為替変動の影響額見込み△92百万円を反映
(前提為替レートは、7月末時点の110.32円)

■ 経常利益

- 7月に発生した為替差益62百万円を反映

(百万円)	2017年12月期業績予想 修正予想(5/9)			2017年12月期業績予想 修正予想(8/3)			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	16,700	17,500	34,200	16,074	16,425	32,500	△1,700	△5.0%
売上総利益	2,260	2,475	4,735	2,116	2,183	4,300	△435	△9.2%
売上総利益率	13.5%	14.1%	13.8%	13.2%	13.3%	13.2%	—	—
販管費	1,660	1,755	3,415	1,583	1,666	3,250	△165	△4.8%
営業利益	600	720	1,320	533	516	1,050	△270	△20.5%
営業利益率	3.6%	4.1%	3.9%	3.3%	3.1%	3.2%	—	—
経常利益	640	640	1,280	563	496	1,060	△220	△17.2%
当期純利益	420	420	840	370	329	700	△140	△16.7%

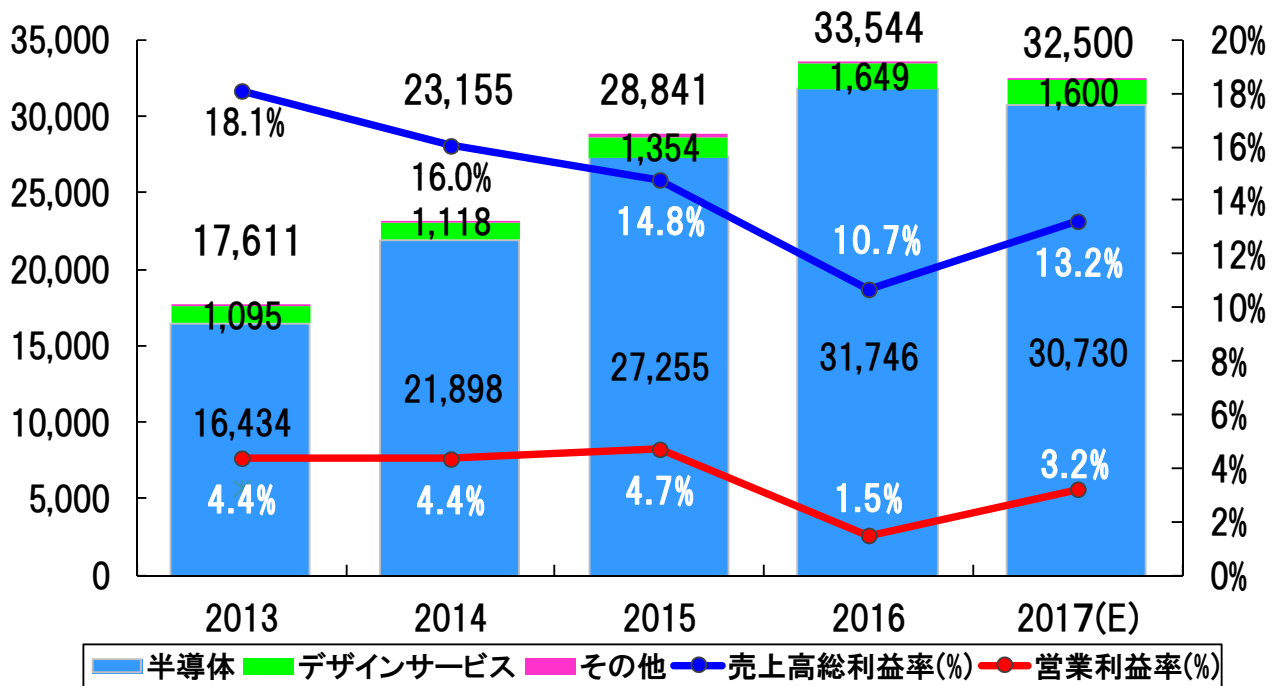
為替変動による業績見通しへの影響

- 2017年5月9日に発表した業績予想においては、適用為替レートは4月末時点の1ドル当たり111.21円
- 第2四半期(累計)での影響
 - 年初における評価レートが円安に進行し、その後円高に進行したことに伴い、仕入値引ドル建債権の評価額の増加を含む為替レート変動による影響が+49百万円発生
- 第3四半期での影響
 - 8月3日時点での売上総利益への為替の影響は、△92百万円と見込む(算出のために使用した為替レート:110.32円)
- なお、第4四半期以降の業績見通しについては、為替変動の影響を見込むことが困難なため、為替変動による影響を加味していない



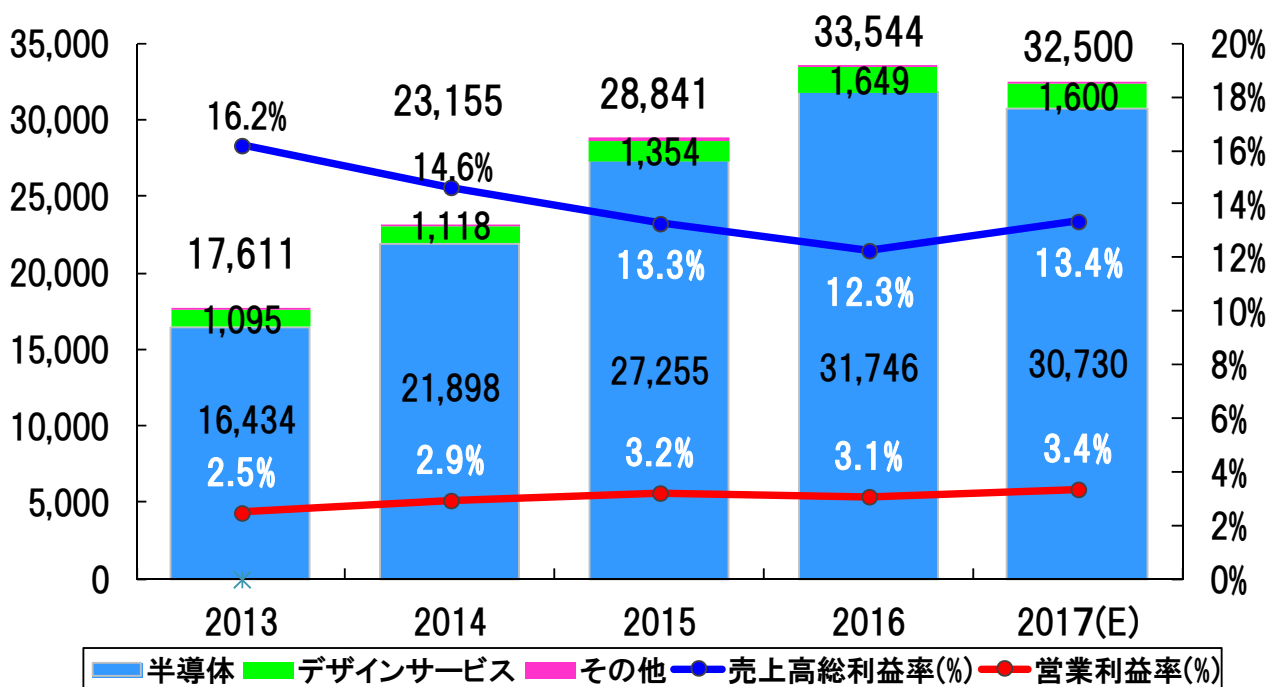
業績見通しの推移(連結)

(単位:百万円)



業績見通しの推移(連結) (為替の影響を除いた場合)

(単位:百万円)



3

事業の進捗状況

半導体事業

■ 事業環境

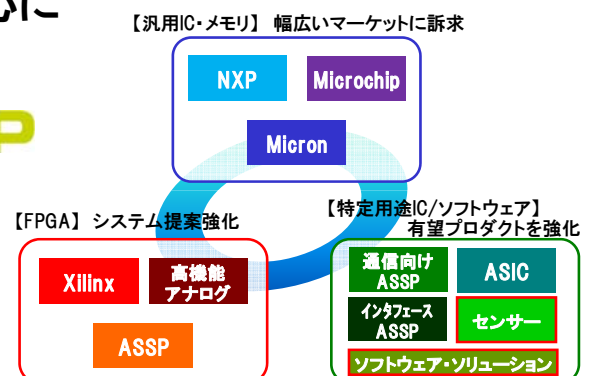
- 成長市場が変化
IoT・車載機器・通信機器(5G)・産業機器(ロボットetc..) データセンター・航空/宇宙・放送/映像・セキュリティ

■ 事業戦略

- 中核の大手メーカー製品を中心に成長市場に提案加速



- 特徴ある有望製品を扱うメーカーの開拓



■ FPGAでの取り組み

- 注力市場に向けた技術提案の強化
 - 通信市場 : 5G規格実現への新製品提案
 - IoT市場 : 新製品・技術提案
 - データセンター : 高速演算処理への新製品提案
 - 放送市場 : 4K/8K、H.265/HEVCソリューション提案
- 中小企業へのビジネス拡大
 - パートナー企業との連携強化
 - 採用実績あるソリューション事例を中小企業へ展開
- FPGAをコアにした他商材提案による売上拡大

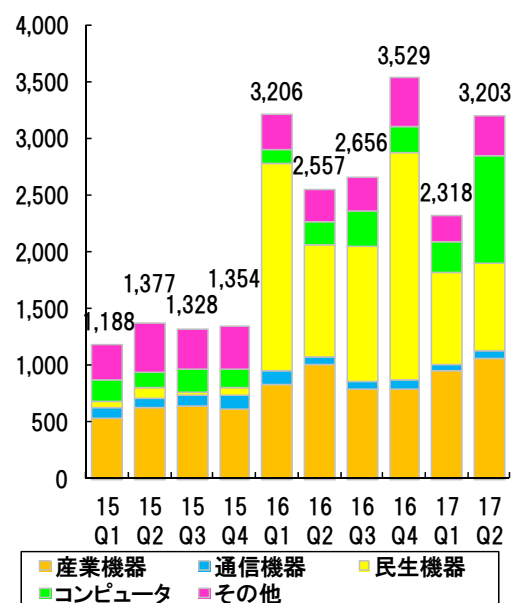


■ FPGAに次ぐ第2の柱となる製品の拡大

- 新規市場開拓
 - IoT、データセンター
- 中小企業へのビジネス拡大
 - パートナー企業との連携強化
 - 中小企業取引数拡大
- マルチソケット提案の強化
 - 複数商材の提案/売上拡大



第2の柱となる主要4製品の売上推移



- 注力市場：産業機器全般（医療、ロボット、IoT、etc…）
- congatec製品販売の強化（プロセッサモジュール）
- 各種CPU半導体の提案/販売の強化
 - CPUをコアにしたシステム提案力（CPU+IF..）
- デザインサービス事業部との連携強化
 - 顧客の仕様に合わせた提案/開発にも敏速に対応



congatec:CPUボード

- 産業用ドローンの開発・販売を行う(株)スカイロボットが発表した世界初の赤外線カメラを搭載したヘッドマウントディスプレイ「Boson/スカイスカウターIR」の開発を支援
- 赤外線カメラに関するソフトウェア開発
- PALTEKは、FLIR社の赤外線カメラモジュール技術サポートやソフトウェア開発を行う日本で唯一の会社



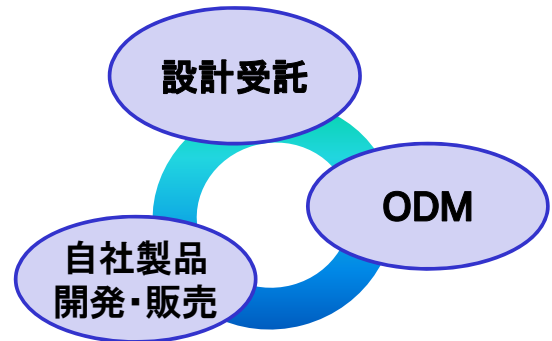
(株)スカイロボットの「Boson/スカイスカウターIR」

■ 事業環境

- 顧客は開発リソースを得意分野に注力
- その他の開発部分をアウトソース

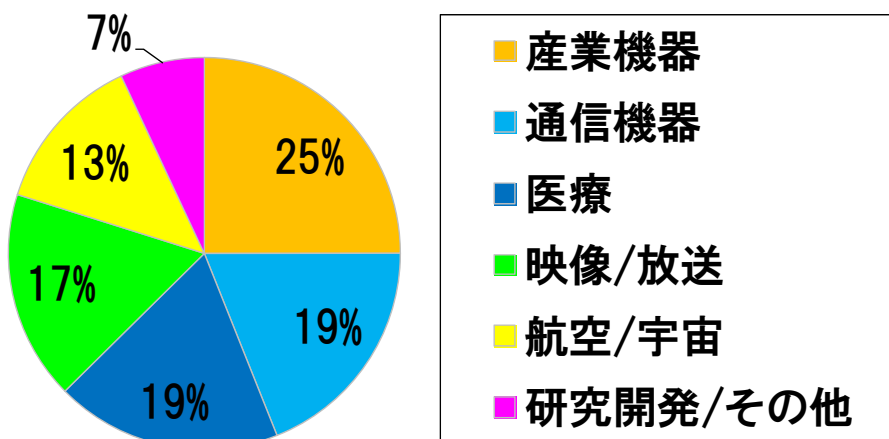
■ 事業戦略

- 設計受託の強化
- ODMの更なる展開
- 自社製品開発・販売
- ソリューションビジネスの展開



- 通信機器、映像/放送機器、産業機器向けが増加
- ソリューションビジネスの促進および開拓

2017年第2四半期での用途別売上構成



■ 8K映像システムの受託開発

- 2017年5月に開催されたNHK技研公開2017で展示された「フルスペック8K制作システム」のなかで、「ライブスイッチャー」および「文字合成装置」を受託開発

NHK技研公開2017での展示の様子



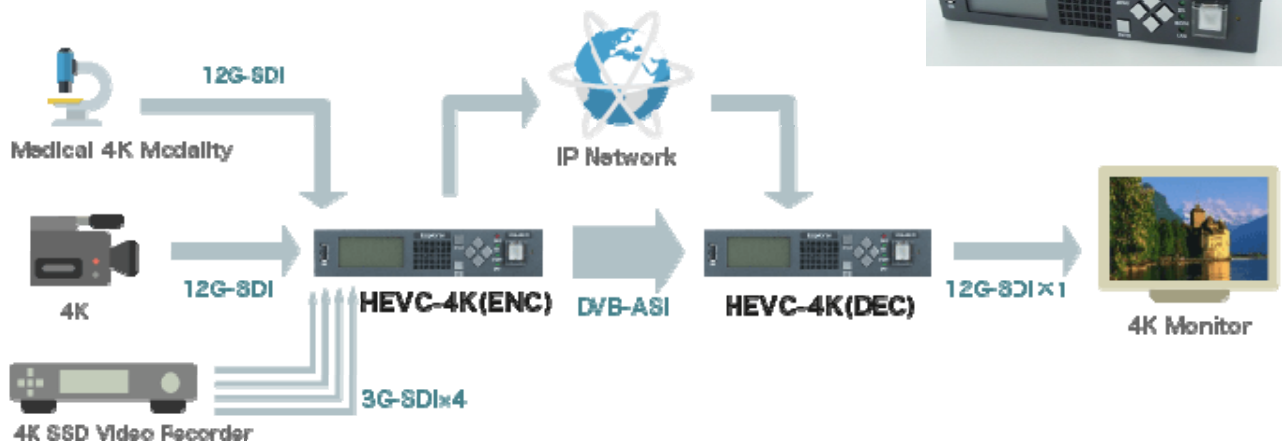
ライブスイッチャー



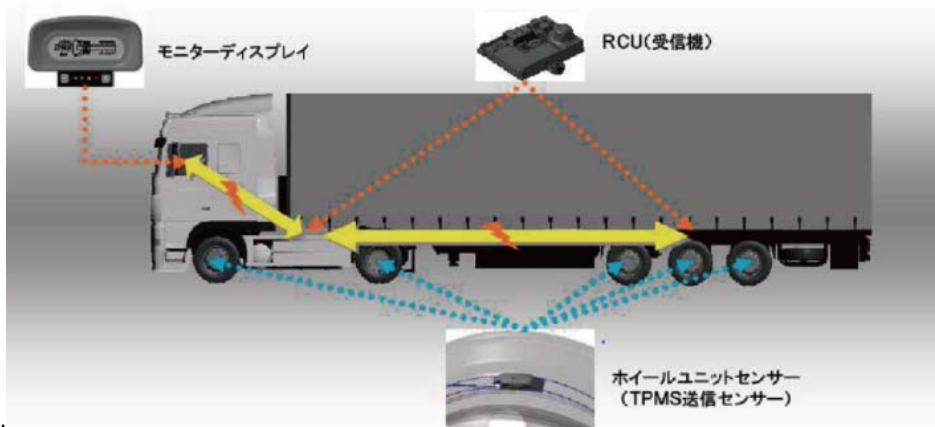
文字合成装置

■ 最新映像圧縮技術H.265/HEVCに対応した4K映像伝送システムを開発、販売開始

- 医療、セキュリティ、防衛、ビデオ配信市場に向けてプロモーション
- 8月より受注開始、10月より出荷開始



- タイヤ空気圧モニタリングシステム(TPMS)の提供開始
- TPMS・車両向けセンサーネットワークのマーケットリーダーであるLDLテクノロジー社と販売代理店契約を締結
- TPMSは世界では装着義務化が進む
 - ヨーロッパや北米、韓国等で装着が義務化。日本、中国はこれから
- 当初は物流会社、バス会社等の事業会社向けに展開

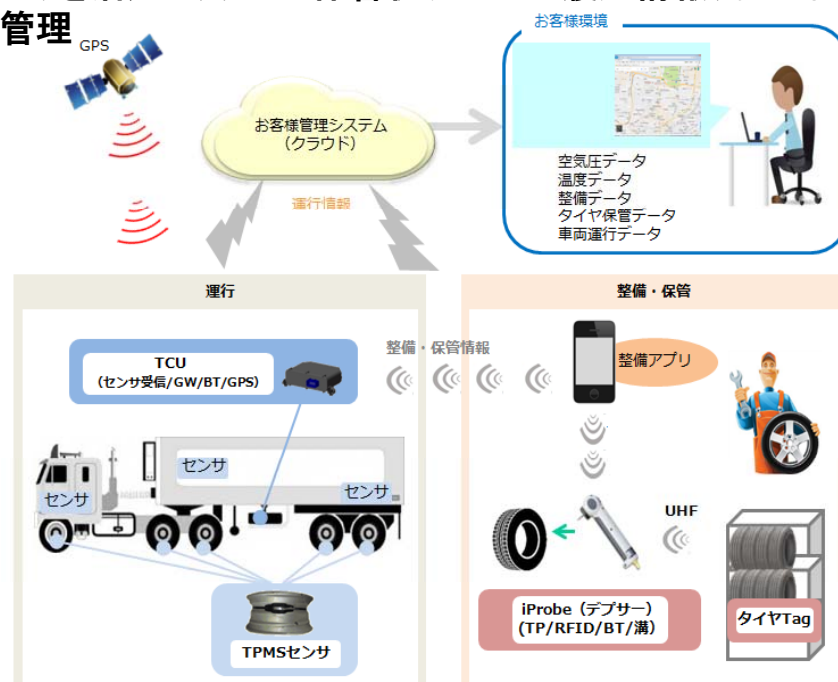


FY2017Q2 Resu

on. All rights reserved.

通信型TPMSの活用事例

- 走行中に、タイヤ空気圧モニタリングシステム(TPMS)から公衆無線回線を使用し、空気圧、温度、および車輛の運行情報を取得
- タイヤTag(RFID)を活用し、タイヤ保管状況などの履歴情報、および整備データを一元管理



FY2017Q2 Results Reporting

ights reserved.

- 物流コストを低減する紙梱包資材ソリューションを提供開始
- 紙梱包資材・システムのマーケットリーダーであるRanpak社と販売代理店契約を締結
- 物流コストのコスト低減を実現
 - 資材節約による梱包資材のコストの削減
 - 梱包資材の保管スペースの削減
 - 梱包作業高速化による労働コストの低減

PadPak SR

重くて壊れやすいもの
大きな製品の梱包に

**PadPak LC**

軽いもの、壊れ易い包装
済みの製品の保護に

**FillPak TT/TTC**

高速梱包が必要な
現場に

**Geami WrapPak®**

固定テープ不要
美しい見た目による付加価値
エアキャップの代わりに



FY2017Q2 Results Reporting

35

© 2017 PALTEK Corporation. All rights reserved.

ご清聴ありがとうございました

以下の担当までお問い合わせ下さい。

柴崎 由記（総務グループ IR担当）

株式会社PALTEK

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル

TEL :045-477-2016

FAX :045-477-2012

E-mail :ir@paltek.co.jp

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したもので、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、本資料においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

また、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- ① 国内エレクトロニクス業界の急激な景気変動や需要動向の変化
- ② 仕入先の代理店政策の見直しや再編等により取引関係の継続が困難となった場合
- ③ 不測の事態による当社グループの情報資産が流出した場合
- ④ 為替相場の急激な変動
- ⑤ 新規仕入先商品の立ち上がりの遅れが生じた場合
- ⑥ 顧客の日本国内での製品開発案件が更に海外へシフトし、当社グループの販売活動が及ばない地域へ移管された場合

参 考 資 料



2017年12月期 製品別業績予想

(百万円)	2017年12月期業績予想 修正予想(5/9)			2017年12月期業績予想 修正予想(8/3)			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
半導体	15,600	16,300	31,900	15,239	15,490	30,730	△1,170	△3.7%
FPGA	6,550	6,650	13,300	5,952	6,548	12,500	△800	△6.0%
特定用途IC	2,700	2,500	5,200	2,830	2,369	5,200	—	—
汎用IC	1,600	2,000	3,600	1,616	1,683	3,300	△300	△8.3%
アナログ	1,550	1,300	2,850	1,618	1,881	3,500	650	22.8%
メモリ	3,100	3,850	6,950	3,221	3,008	6,230	△720	△10.4%
デザインサービス	1,000	1,100	2,100	767	832	1,600	△500	△23.8%
その他	100	100	200	68	101	170	△30	△15.0%
売上高合計	16,700	17,500	34,200	16,074	16,425	32,500	△1,700	△5.0%
営業利益	600	720	1,320	533	516	1,050	△270	△20.5%

- 為替変動により当社グループの利益は以下の4点で影響を受けます

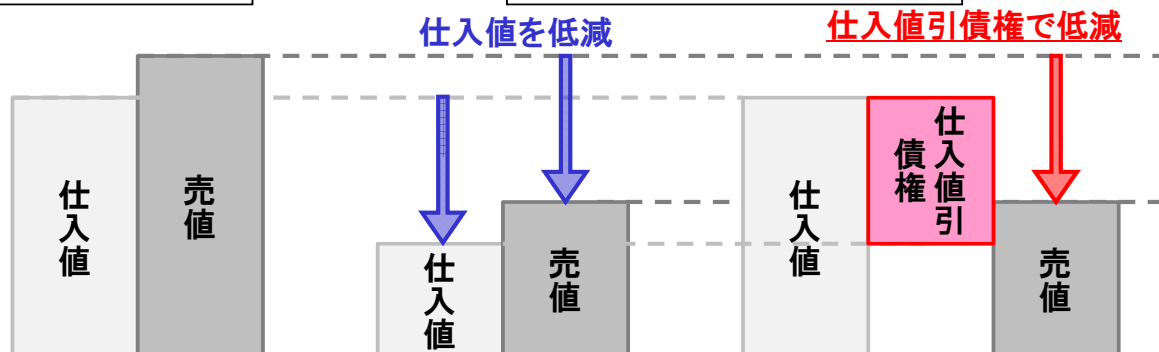
- ① 仕入値引ドル建債権の為替変動による影響
- ② 調達在庫の為替変動による影響
- ③ 決済時のドル調達レート変動による影響
- ④ ドル建売掛金入金時のレート変動による影響

【仕入値引ドル建債権の為替変動による影響】

- 当社が仕入先に対して保有する『仕入値引ドル建債権』が、為替レートの変動により評価額が増減することで、業績に大きな影響を与える
- 仕入値引ドル建債権について：
 - 量産案件によっては、通常価格よりも低い価格での販売を要請されることがある
 - その場合、仕入先との間で仕入価格の低減交渉を行う
 - その実現方法は、「仕入値自体の低減」と「仕入値引債権の付与による低減」

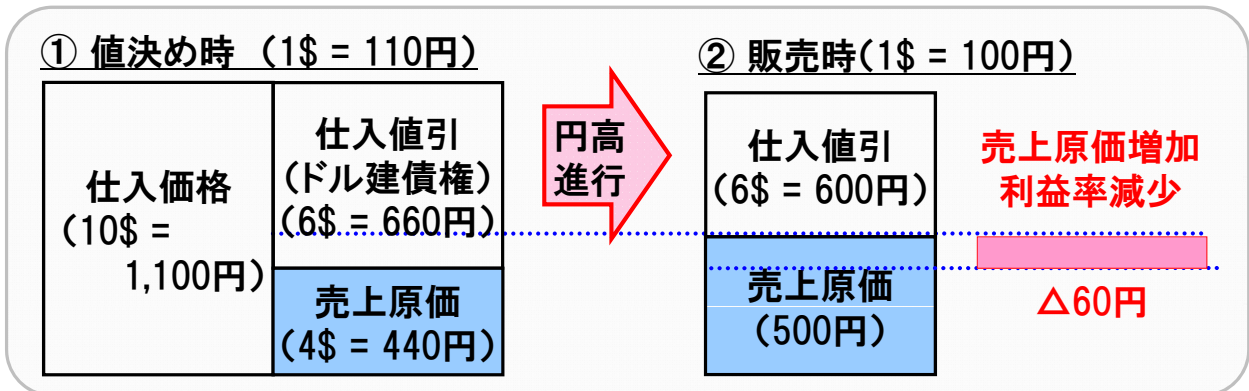
通常価格で取引

量産案件では値引価格で取引



- 仕入値引債権の評価額の増減は、値決め時と販売時の為替レートの差により生じる
- そのため、急速に円高が進行すると、為替レートの差が大きく生じるため、仕入値引債権の評価額が大幅に減少
- これにより、売上原価が増加し、売上総利益が減少

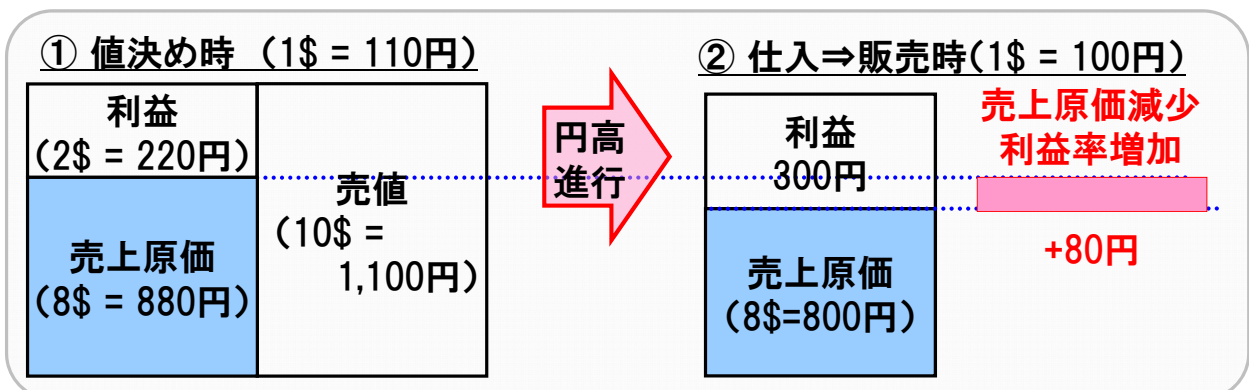
例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化



【調達在庫の為替変動による影響】

- 海外から仕入れたドル建の製品において、為替レートが円高に進行することにより、売上原価が減少し、売上総利益は増加

例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化

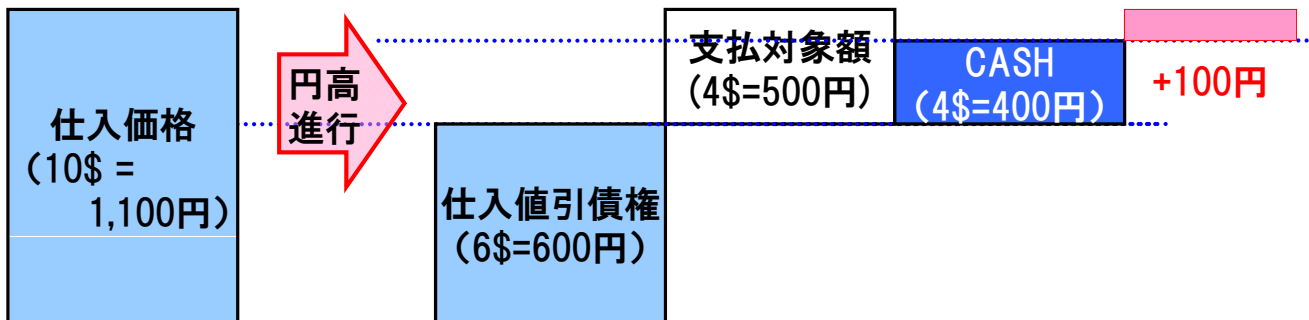


為替変動による影響の発生要因③

【決済時のドル調達レート変動による影響】

- 支払を行う際に円高に進行していた場合、ドルを調達する金額が少なくなるため、決済差額が生まれ、為替差益を計上することとなる
- 一方、円安に進行した場合は、為替差損を計上することとなる

① 仕入時 (1\$ = 110円) ② 販売・支払時 (1\$ = 100円)

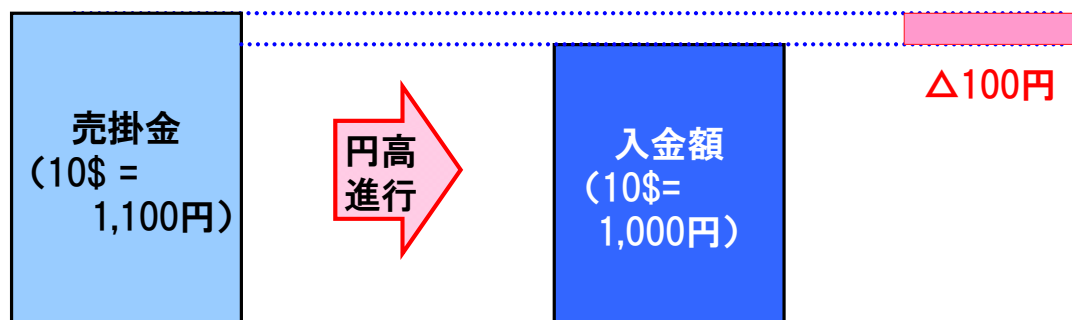


為替変動による影響の発生要因④

【ドル建売掛金入金時のレート変動による影響】

- ドル建売掛金の入金がある場合には、円高に進行するとマイナス、円安に進行するとプラスの影響が発生する(営業外の為替差損益)
- 当社はこのリスクを限定的にするために、為替予約を行っている

① 販売時 (1\$ = 110円) ② 入金時 (1\$ = 100円) 決済差額



開示区分	内容説明
半導体事業	半導体及び関連製品の販売、技術支援
FPGA	ザイリンクス社のFPGAを中心とするソリューション
特定用途IC	特定用途に特化した半導体を中心とするソリューション (例:通信向け、インタフェース向け、携帯端末向け等)
汎用IC	NXPセミコンダクターズ、マイクロチップテクノロジー社等の汎用ICを中心とするソリューション
アナログ	リニアテクノロジー社等のアナログ半導体を中心とするソリューション
メモリ	マイクロンテクノロジー社等のメモリを中心とするソリューション
デザインサービス事業	受託開発、ODM/EMS/OEM、自社製品の販売
その他	上記のカテゴリに属さないソリューション